

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言/自動車リサイクル士修了試験が終了!… P1 □第7回東北ブロック地域団体合同交流会… P2,P3
- トラック解体作業見学会・意見交換会… P3 □第57回 合同会議の報告… P4
- 第1回 鉄り青年部&北自協次世代プロジェクト合同勉強会/MTK(宮城県組合)と仙台市が災害協定を締結… P5
- 近畿ブロック会議の結果/JTP創立20周年記念式典/東北地区部品団体交流会の様子… P6
- 2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業10月出荷状況と上期累計/10月新車販売・使用済自動車発生台数… P7
- 鉄スクラップ最新情報… P8 □行事予定/お知らせ・編集後記… P9

vol.165

自動車リサイクル士(新規講習会)

修了試験が終了!

01

2022年度自動車リサイクル士新規講習会の修了試験日程が全て終了しました。今回は札幌会場から沖縄会場にかけて全国7カ所で試験が実施され、計233名の方が受験されました。

- 合格発表：2022年12月12日(月)
- 機構ホームページにて発表(自動車リサイクル士のページ)
- 認定証の発送：2023年1月頃随時郵送(合格者のみ)

どの会場でも試験前には皆様緊張した面持ちでしたが、試験が終わりホッとされている方や出題された問題についてテキストで確認されている方が多く、試験に合格するという大きなプレッシャーを背負いながら真剣に取り組まれていると見受けられました。

また、**何度も見返したであろう折り目のたくさんついたテキスト**や**自己流にまとめたノート**を持参し直前まで見返していた方など、これからの時代を担う自動車リサイクル士に挑戦されている姿勢が非常に深く印象に残っています。

一事務局より

修了試験はソーシャルディスタンスの確保や一方通行など十分なコロナ感染予防対策を施した上での開催となりました。受験者の皆様にはご協力をいただきまして誠にありがとうございました。



【東京会場の様子】



【札幌会場の様子】

巻頭言

今年も残すところ1カ月となりました。振り返るとコロナ禍3年目に入り厳しい経済状況、ロシアによるウクライナ侵攻、新車の納車遅れ、円安、使用済み自動車や中古自動車の高騰など激動の1年でした。

Withコロナということで新しい生活様式も定着しつつあり、経済も人々の動きも活発になってきました。また、地球温暖化やカーボンニュートラルなど環境についても理想論ではなく実質的な動きも始まっています。

世の中が大きく変革する中、私達の意識も固定概念に囚われることなく、新たな情報・知識を学び、広げていく必要があります。1社の力は小さなものでありますが組織を通して互いに切磋琢磨し、共存共栄する2023年となりますよう期待しています。

〈広報部会 木村 香奈子〉

《編集・発行責任者》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》
一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
HP: http://www.elv.or.jp/

11月4日(金)、5日(土)に3年ぶりとなる東北ブロック地域団体合同交流会が宮城県仙台市で開催され、社員を含む43名の解体事業者の皆様が参加されました。初日は宮城県の解体事業者4社の会社見学会、2日目は各県の解体事業者が集い、東北ブロック会議と併せた意見交換会が行われました。今回は見学した各事業所4社と実践報告があった3社の特徴や内容についてご紹介します。

【見学した事業所】

■株式会社Mogee (モギー)

- ・正社員40名、パート97名(うち女性70名)という構成。
- ・女性が働きやすい職場づくりがされており、梱包力の高さなど女性の強みを活かされている。
- ・パートさんを上手に雇用し考えられた経営をされている。
- ・解体者の入庫はオークションが99%、ヤフーオークションでの中古パーツ販売がメイン

■有限会社鈴和商会

- ・社員数は5名、入庫は一般ユーザーとディーラーがメイン。
- ・限られた保管スペースでリユース部品の商品化に力を入れている。
- ・部品販売に加え、ライトの黄ばみ取りやアルミホイールの徹底した美化によって付加価値を上げ、売上に繋げている。

■有限会社泉自動車解体

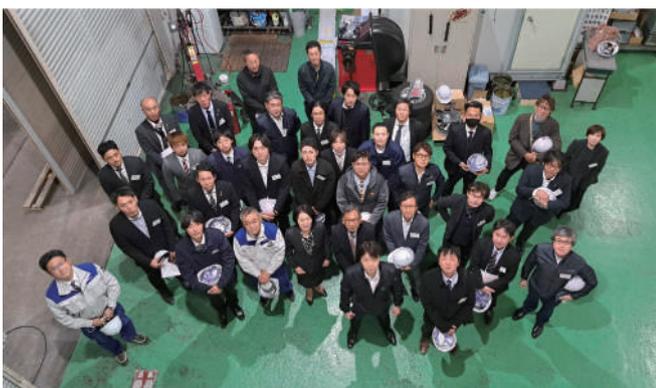
- ・社員数は12名、解体屋が並んでいるという珍しいロケーション。
- ・限られた保管スペースで効率的な中古部品の販売に力を入れている。
- ・小型重機を使用した分別とハーネスなどから資源を回収している。



【泉自動車解体見学の様子】

■株式会社三森コーポレーション

- ・宮城県内でも古参で大手であるが、使用済自動車の処理は行わず他社仕入れによる部品販売とリビルト商品の開発・販売をメインに行っている。
- ・リビルト、中古部品販売の経験をもとに、リビルト商品の開発という新分野へ着手した。
- ・現在取り扱っている商品はリビルトマフラーとプロペラシャフト。
- ・新たな商品づくりへの模索と挑戦を長年積み重ねてきている。



【参加者の集合写真】



【見学の様子】

【現況報告】

■有限会社カーサービスオオトモ

- ・社員数はアルバイト含め 10 名
- ・入庫が激減し、現在は月間 30 台程度で軽自動車をメインに解体している。
- ・今までの経験を生かして、全体の売上の 7 割を部品売上に取り組んできた。
- ・オーバーホールしたキャリパー作成、販売に取り組んでいる。
- ・解体業で経営が厳しくなってきたので、趣味の釣りを活かして遊漁船を経営する予定。

■有限会社成澤商会

- ・社員 5 名
- ・入庫が激減し、現在は月間 30 台程度で軽自動車をメインに解体している。
- ・オーバーホールしたキャリパー作成、販売に取り組んでいる。
- ・カーサービスオオトモとオーバーホールしたキャリパー等共同販売が出来ないか模索している。

■有限会社平地商会

- ・所属している組合で中央会等の補助金を活用して、新しい取組みとして一般ユーザーの認知度アップ（看板、チラシ、HP など）に取り組んできた。

【見学を終えて～参加者の感想～】

ひと言でいえば各社が本当に厳しい環境の中で事業をされているということが理解出来ました。その中で様々な取組みを行い、知恵を絞って窮地を凌いでいます。そういった生の現場を見させて貰い、社長から直接話を伺うことができ非常に有意義な交流会だったと思います。現在のような厳しい会社経営をする上で、参考になる部分が大変多く勉強になりました。まだまだやれることがあることを確信しました。

トラック解体作業見学会・意見交換会

03

2022年11月10日(木)にJTP主催の「トラック解体作業見学会・意見交換会」が兵庫県姫路市の株式会社新井商会で行われ、経済産業省、一般社団法人日本自動車車体工業会、当機構など総勢30名を超える見学会となりました。実際にトラックや架装物を解体する様子を現場で見学しながら、「より安全で効率的な作業手順や方法」、「架装物に用いられている素材やその形状に応じた解体方法」など新井商会の知恵と工夫を目の当たりにし、参加者全員が活発な意見交換を行っていました。一見同じ様な素材に見えても実は異なる素材であったり、トラックの安全性や性能の向上に伴って使われる素材や性状が変化してきていたりするなかで、作業員の的確な判断とオペレートをもって作業を進めている姿が見受けられました。

新型コロナの影響で中止や延期となっていましたが、「乗用車とは異なるトラックの解体現場を実際に色々な方々に見学することで理解が深まるとともに多角的な意見交換が出来ること、業界全体が前に進むキッカケとなればという思いがある」と新井代表理事の発言がありました。



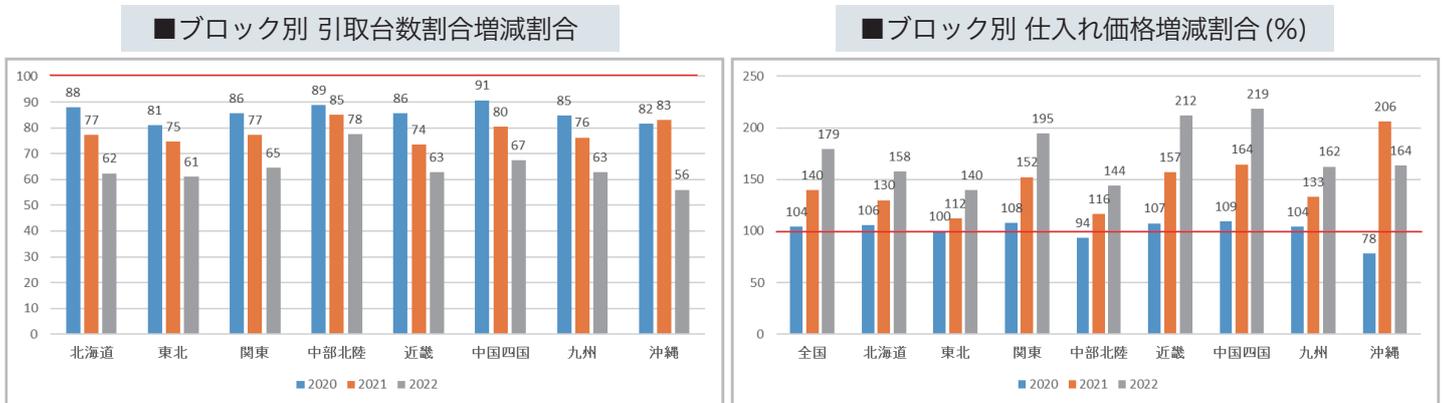
【見学会参加の皆様】

2022年11月7日(月)第57回産構審・中環審合同会議がWEB開催され、機構から酒井代表理事が委員として参加しました。本記事では酒井代表が会議内で発信した内容についてご報告いたします。

①コロナ禍における入庫台数の激減について

- ・2022年9月にJAERAで実施した「入庫台数・仕入れ価格に関するアンケート調査結果」を基に**会員各社から入庫台数が激減している状況と、車の流通価格が高騰している状況**を会議内で発信。
- ・使用済自動車の処理台数を見ると、2021年の315万台から304万台、数%程度の減少となっているが、今回のアンケート結果を見ると、2019年度と比較して2020年度～2022年度の3年間で30%から40%減っているという結果が出ていること。
- ・車の流通価格が高騰しており、使用済自動車とされていた車両がオークション等に出回り中古車として販売されている状況が、我々解体業者の入庫(仕入れ)台数の激減に繋がっている。

【参考】入庫台数・仕入れ価格に関するアンケート調査結果より(2022年9月JAERA実施)



※両表とも2019年度を基準とした割合

②外国人事業者の増加や需要の高まりに伴う中古車輸出について

- ・会員から外国人事業者が各地において高値で仕入れを行っているという情報が多く聞かれてきたため、機構独自に解体業者名簿から外国人事業者数を調査したところ、**全国で約4,000事業者、全国平均で25%以上は外国人事業者であるという結果**が出た。特に千葉県、茨城県、群馬県は許可業者のうち50%以上が外国人事業者という状況になってきている。
- ・100年に1度の変革期と言われる車業界で、我々も適正処理はもちろんのこと、国内資源循環・カーボンニュートラルなど様々な取り組みをしていかなければならない。そのような環境下で外国人事業者がどんどん増加している点を把握し、何らかの対応を考えるべきである。
- ・リサイクル料金の輸出返還制度について、輸出の促進策になってしまっている状況にあり、使用済自動車とするか輸出するかの場合、「リサイクル料金が返還されるか」、「解体業者も負担するか」によって、国内資源循環がやや阻害されてくるため見直しを検討して欲しい。

【参考】JARS公表データによる外国人事業者の抽出(類推)結果より一部抜粋

| 都道府県 | 解体業許可事業者数 | 外国人事業者数(※) | 外国人の割合 | 【参考】2021年度引取実績(全体) |
|------|-----------|------------|--------|--------------------|
| 茨城県 | 229社 | 124社 | 54.1% | 135,513台 |
| 群馬県 | 99社 | 50社 | 50.5% | 67,291台 |
| 千葉県 | 406社 | 217社 | 53.4% | 247,115台 |
| 全国 | 3,835社 | 984社 | 25.7% | 3,041,819台 |

(※) 2022/09/03 時点の事業者の氏名/名称、事業者の名称よりJAERAで類推した数

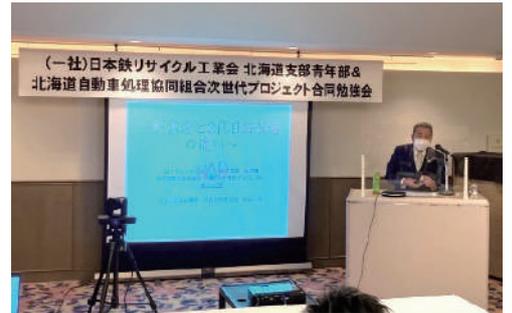
次世代プロジェクト合同勉強会を開催！（北海道）

鉄リサイクル工業会北海道支部青年部(鉄リ)と北海道自動車処理協同組合次世代プロジェクト(北自協)による「第1回鉄リ青年部&北自協次世代プロジェクト合同勉強会」が10月21日(金)北海道札幌市で開催され、勉強会にはWEB参加者を含め55名の方が出席されました。

コロナ禍前、2019年の親睦パークゴルフがキッカケとなり今回の開催に繋がっています。今回は勉強会で行われた講演会の内容を一部ご紹介します。

【石上車輛株式会社 石上会長 ～創業者と2代目経営者の違い!!～】

- ・先代が突然亡くなり事業を継承することになったが、元々この仕事が嫌で仕方なかったなかで決断するまでかなり悩んだこと。
- ・0から1を生み出す(創業者)、1から2へ広げる(2代目)はそれぞれに難しい。
- ・社長とは単に組織内の役割で人間性が優位であることではないので勘違いするな。
- ・会社経営にはカラーが明確である長期的なビジョンが必要。
- ・倒産しても、無くならない会社と無くなる会社がある。それは社会に必要とされているか否かの違いで、社会に必要とされている会社になることが必要。



【石上会長の講演】

【株式会社マテックの杉山社長 ～雑品屋という職業～】

- ・自身がこの仕事に就くことは必然であり、他の仕事は考えもしなかった。
- ・自身が営業に行き名刺を出すと「ああ息子さんね」と反応されたことがキッカケで社名を現在の「マテック」に変更した。
- ・出張、特に展示会等に出かけた際は、何か機械を買ってこないかと先代には怒られた。役員が出張に行き何も持ち帰らないのは遊んでいると同じ。
- ・中小企業、特にこの業種は人材を選べないため、来た人材が適材適所で働くことが出来る体制が必要。



【杉山社長の講演】

MTKと仙台市が災害協定を締結

宮城県中古自動車解体再生部品卸協同組合(MTK)と仙台市による「災害時における被災自動車の撤去等に関する協定」の締結式が10月19日(水)仙台市役所で執り行われました。この協定は、地震、風水害、その他大規模な災害・事故の発生時に、市民の安全と交通を回復するために必要な被災自動車の撤去等についてMTKと仙台市で予め定めておくという内容です。

MTK平地理事長は「東日本大震災を目にした時、自分たちに何か出来ないかと考え仙台市の被災自動車等の撤去作業に取り組みました。組合員それぞれの事業所や社員、ご家族の方が被災されたなか6,534台もの車輛を撤去出来たのは、組合員や日本自動車リサイクル機構の皆様の連携とご協力があったからこそ」と震災当時の思いに加え「近年増加している台風や大雨被害の際に我々に出来ること」として締結式を迎えたとのことでした。



【締結式を迎えて】

※平地理事長(前列左から2番目)

※郡仙台市長(前列左から3番目)

近畿ブロック会議の開催結果

07

2022年11月18日(金)に大阪府で開催され、機構からは酒井代表と事務局がWEBでの出席となりました。在庫台数の減少と仕入価格の上昇が続いている状況でしたが、「そのなかでどう考え行動するか」が大きなテーマとなり、例えば、ニッチなニーズに対して活路を見出す事業所、女性の活躍環境の整備やSNS戦略などに着目する事業所、ネガティブな状況だからこそチャンスと捉えている事業所など、各社切り口や考え方を変化させて行動を起こしているよう見受けられました。

「この業界は魅力や華やかさが沢山ある。次の世代に繋いでいくためにも今こそポジティブに考え業界全体を盛り上げていくべき」として閉会となりました。



【会議の様子】

JTP 創立20周年記念式典

08

一般社団法人日本トラックリファインパーツ協会(JTP)が創立20周年を迎え、2022年10月21日(金)に石川県金沢市で記念式典が開催されました。新井代表理事の挨拶や、当機構から出席した酒井代表理事のお祝いと日頃の感謝の意を込めた挨拶など終始明るく華やかな式典となりました。



【新井代表理事のご挨拶】



【酒井代表理事のご挨拶】

また、式典内では、日刊自動車新聞社の高橋賢治社長による「大変革期における自動車産業の展望とトラックリサイクルの将来像」という特別公演が行われました。

東北地区 部品流通交流会

09

2022年11月12日に「東北地区部品流通交流会」が開催されました。この交流会は東北地区の自動車流通団体が組織団体の枠を越え、情報交換や親交を深める目的で各流通団体が持ち回りで年に一度、開催されてきました。しばらく開催は見合わせていましたが、今回は8年ぶりの開催とあってか52名の参加者が集いました。

交流会は懇親会に先立ち、第一部では基調講演が企画されました。「自動車におけるリサイクル材の動向について」といった演題で、三井物産株式会社 荒川朋也氏、いその株式会社 高野敦司氏よりプラスチック・リサイクルについての今後の展望を、また部品の流通に深く関わることで「トラック、物流業界の課題と対策」とった内容で西濃運輸株式会社 肥田滋氏、サンテックサービス株式会社 佐藤大地氏により講演を頂戴しました。特に今後、注目される取り組みということもあり、プラスチック・リサイクルに対する関心が高く、各社真剣な面持ちで聴き入っていました。



【講演の様子】

2022年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 10月出荷状況と上期累計

10

【2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業10月出荷状況と上期累計】

上段 10月出荷数 下段：上期累計【単位：個】

| 参加会社数 (社) | プリウス 20 | プリウス 30 | プリウスα41 | レクサス CT200H | アクア /ヴィッツ | カローラアクシオ /フィルダー | クラウン HV GWS204 |
|--------------|---------|---------|---------|----------------|--------------|--------------------|-------------------|
| 17 | 10 | 25 | 1 | 2 | 30 | 0 | 1 |
| 79 | 151 | 341 | 12 | 5 | 298 | 2 | 26 |

| クラウン HV AWS210 | SAI/レクサス HS250H | 日産デュトロ /ブルーリボン | ノア/ヴィクシー /エスファイア | シエンタ HV | プリウス 50 | 不良品 A-C | 合計 |
|-------------------|--------------------|-------------------|---------------------|---------|---------|---------|-----|
| 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 21 | 93 |
| 21 | 16 | 0 | 8 | 6 | 4 | 78 | 968 |

2021年度の結果は以下のURLをご参照ください。

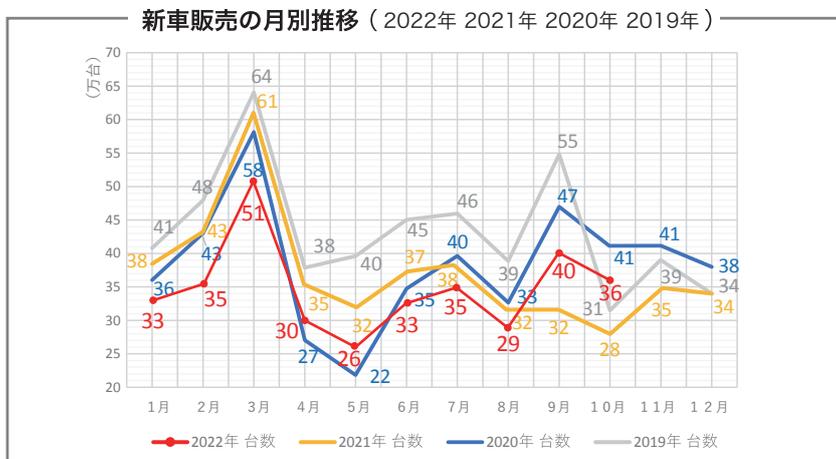
□2021年度の結果はこちら→ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1810>

10月新車販売・使用済自動車発生台数

～10月の使用済自動車発生台数 前年同月比24%増～

11

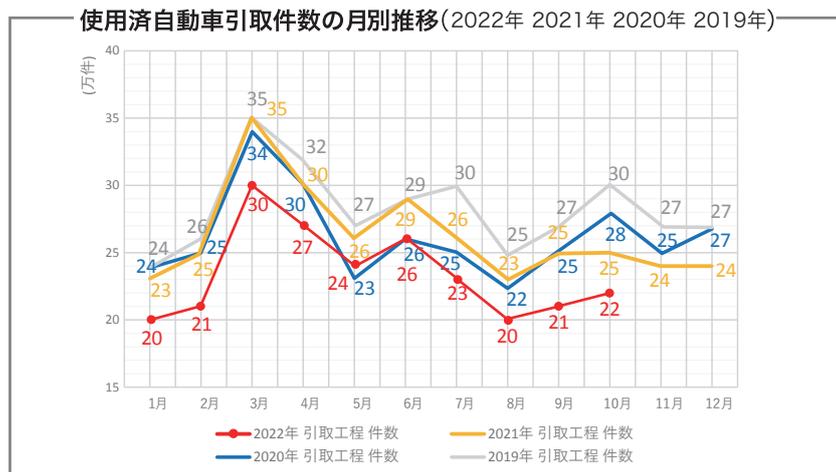
■2022年10月度 新車販売台数 359,159台 (前年同月比128.6%)



| 過去の新車販売台数推移 | | |
|------------------|-----------|--------|
| 年累計 | 台数 | 前年比(%) |
| 2022年 (10月まで) | 3,479,877 | 92.6 |
| 2021年 | 4,448,340 | 96.7 |
| 2020年 | 4,598,615 | 88.5 |
| 2019年 | 5,195,216 | 98.5 |
| 2018年 | 5,272,067 | 100.7 |

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2022年10月度 使用済自動車引取(電子マネifest)実施状況



| 引取件数 |
|------------------------|
| 218,563件 (前年同月比 86.3%) |
| フロン回収工程 |
| 192,292件 (前年同月比 85.3%) |
| 解体工程 |
| 224,090件 (前年同月比 85.2%) |

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

11月第4週(25日)の鉄スクラップ動向



11月25日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

| | | H2 | 気配 |
|-----|-----|---------------|----|
| 関東 | 北関東 | 46,500～47,500 | 続落 |
| | 南関東 | 46,500～47,500 | 続落 |
| | 浜値 | 45,000～46,000 | 続落 |
| 名古屋 | | 45,000～46,500 | 続落 |
| 関西 | 大阪 | 48,000～49,000 | 続落 |
| | 姫路 | 46,000～46,500 | 続落 |

国内全域で鉄スクラップ相場が続落 海外・輸出安の影響で11月25日から500円どころ

国内電炉や湾岸商社・シッパー筋の間に11月25日、鉄スクラップ購入価格を値下げする動きが広がった。値下げ幅は概ね500円どころ。国内全域で鉄スクラップ相場が値下がりしたのは11月18日以来だ。海外・輸出価格に対して国内価格が割高な状態にあるため、国内相場の下げ相場が続いている。

東京製鉄は11月25日、全拠点の鉄スクラップ購入価格を全品種500円値下げした。他の電炉筋や湾岸筋も概ね同様の値下げ改定を実施している。

国内電炉鋼の月間生産量が8月以降、3カ月連続で前年同月実績を下回り、原料である鉄スクラップ需要が減少傾向にある。これに加え、市中での先安観が継続していることや輸出不振の状況が続いていることなどから、電炉向けの鉄スクラップ出荷が増加し、電炉筋の入荷が改善していることも、国内相場が続落する要因となっている。ただその一方で、H2やH3などを中心に品薄感も残っているため、需要家筋は慎重な姿勢を保ち、500円刻みの小幅な値下げ対応にとどめている。

【関東地区】 電炉入荷好転しさらに続落 H2などに品薄感も残る

関東電炉の間に11月25日、鉄スクラップ購入価格を追加値下げする動きが広がった。同日から主要電炉16事業所中12事業所が全品種500円の値下げ改定を実施。また、契約納入筋が11月第5週の購入価格を1,000円値下げし、関東相場は続落する動きとなった。湾岸商社・シッパー筋も浜値を引き下げている。H2炉前実勢価格は46,500～47,500円中心。H2浜値は1トンあたり45,000～46,000円中心と、電炉に比べ先安となっている。

【東海地区】 電炉の入荷状況は大半が消費水準を確保

名古屋地区の主要電炉は11月25日から一斉に鉄スクラップの購入価格を全品種500円引き下げた。他地区に比べ割安感にある地区市況ながら、問屋筋は電炉向け出荷を優先しており、発生の低迷から荷動きは盛り上がりながらも安定している。発生も甲山類の品不足は慢性化している一方、新断の発生はやや持ち直し、電炉の大半が消費水準の入荷状況を確保できている。H2炉前実勢価格は45,000～46,000円中心、高値46,500円見当。

【関西地区】 ヘビー中心にタイト感残り堅調様子見

大阪地区の鉄スクラップ市況は一段安の展開となった。電炉の入荷は引き続き生産計画を上回るペースで、11月25日からの値下げは複数で意図的に下げ幅を拡大する動きも見られ、11月第4週から月替わりにかけて、他地区との価格差は縮小へすすむ公算が大となっており、電炉筋によっては買値レベルを中心もしくは下値寄りへと移している。H2炉前実勢価格は、大阪地区が48,000～49,000円中心。姫路地区が46,000～46,500円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、11月25日午後時点のもの)

行事予定

— 12月の主な行事予定 —

- 12月2日(金)
・第6回 常任役員会(WEB)
 - 12月6日(火)
・第9回 広報部会(対面)
 - 12月7日(水)
・第2回 理事会兼第3回ブロック長会議(対面)
 - 12月13日(火)～27日(火)
・日本自動車リサイクル機構 第10回景況調査
 - 12月15日(木)
・J-FAR(樹脂リサイクル社会実装事業)定例会(WEB)
- ※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。
- 12月29日(木)～1月5日(木)まで事務局はお休みとなります。

December

お知らせ

自動車再資源化協力機構(自再協)より 「2022年11月1日より、車台番号不明のLiBの お引取は出来ませんのでご注意ください！」

自再協のLiB(リチウムイオンバッテリー)共同回収システムは、「車両の部品交換及び自動車リサイクル法で規定される使用済自動車の解体行為により発生したLiB」を原則回収対象としております。

2022年11月1日以降は、部品交換及び解体行為により発生したLiBであることの確認のため、引取依頼時の車台番号の登録を必須とさせていただきますので、整備台帳や移動報告等で車台番号を調べた上で、引取依頼していただきますようお願いいたします。

【詳細はこちら】 https://jarp.org/pdfs/information/20221021_lib_information.pdf

編集後記

この寒い時期になると大昔中学生の時、体育の授業で柔道をやっていたことを思い出します。足がしもやけになりながら……。折しもその頃「柔道一直線」というテレビ番組が放映されていて、毎週楽しみに見ていたので、自分も主人公のようになりたいと思いながら寒さを我慢して練習していました。

一直線といえば、先月久しぶりに皆既月食をゆっくり堪能しました。太陽と地球と月が一直線に並んだ時に見られる現象ですが、月は地球の本影に入ってしまうと完全に暗くなってしまおうと思いきや、地球の大気層を通過した赤い光が月面を僅かに照らすため月は赤味を帯びて見えるそうです。私達業界も、この先お先真っ暗になってしまうのかなと心配な所はありますが、皆既月食時の月に例えれば僅かな赤い光が必ず差し込み、それが希望の道案内となるのではないのでしょうか。その光こそが「自動車リサイクル」という、私達自動車解体業者の仕事の本筋であると思います。

ちなみに将棋の世界では、本筋を「多くの対局から培われた感覚に照らして、悪手にならないような王道的な手」というそうです。私達は今までの経験を活かし、今とこれからの将来を見誤る事なく、自動車リサイクルの本筋から外れないよう、自信をもって邁進していきたいものです。

(広報部会長 田村 幸男)